2026年04月16日
（第３種郵便物認可）

埼玉新聞　経済欄

中小企業診断士による
経営Q&A

Q 企業の経営診断はどのように行われるのでしょうか。また、それは必要でしょうか。

A 皆さんは「人間ドック」を受けたことがあるでしょうか。人間ドックは、一般的な健診よりも多くの検査項目で身体の健康状態を詳しく調べ、病気の早期発見や将来の健康リスクを把握するために行うものです。普段は自覚症状がなくても、検査によって病気の兆候が見つかることもあります。

経営診断の必要性について

では、企業の場合はどうでしょうか。企業が長期的に存続し、成長していくためには、自社の現状を正確に把握することが欠かせません。従って、私たち人間が自身の健康状態を調べるのと同様に、企業は自社の経営状態を客観的に把握する必要があります。その目的に沿って企業で行われる取り組みのうち、まさに私たちの「人間ドック」に当たるものが「経営診断」です。

経営診断とは、企業の経営の現状を多角的に分析し、課題や改善点を明らかにする総合的な診断のことで、いわば「会社ドック」とも言えるものです。実際の「会社ドック」（経営診断）は、次のような視点から行います。

▽外部環境診断（経営計画への反映）
▽内部環境診断（財務分析や従業員意識調査）
▽現場調査による診断（業務プロセスなどの調査）
▽リスク管理診断（コンプライアンスや管理体制の調査）

このように、「会社ドック」外部の専門家視点によるこれらの診断を経て、企業の経営の現状や潜在的な問題点を客観的に把握することができます。人間ドックで、検査結果から生活習慣の改善や治療を勧められることがあるのと同様に、経営診断で問題が見つかればその企業は改善策を講じる必要があります。それらを放置すれば、将来的に大きな経営リスクにつながる可能性があるからです。それゆえ、その改善策を着実に実行することは最重要と言えますが、その際には、企業に寄り添い、助言してくれる「主治医」のような存在がいることが望ましいでしょう。

（経営診断）を受けることで、経営者自身が気付いていなかった課題、改善すべき点が明確化し、将来に向けた経営戦略を検討することが可能になります。しかし、実際の中小企業ではこのような経営診断が十分に行われていないのが実情です。その理由として、

▽どこに依頼すればよいか分からない
▽周囲で実施している企業が少ない
▽費用が高そうに感じる
▽法的義務がない

といった点が挙げられます。

企業も人間と同じ「生き物」です。問題が大きくなる前に、早い段階で課題を発見して改善することが重要です。そのためには、経営診断（「会社ドック」）の活用をお勧めします。中小企業診断士はその名の通り、経営診断ができる経営全般に精通した国家資格を持つコンサルタントですので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

（中小企業診断士・吉多邦夫）

連絡先：一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎048・762・3350）